

企業名：株式会社大林組

レポート名：OBAYASHI コーポレートレポート 2024

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

明確に理解できると感じる。大林組は、2050 年を見据えた長期ビジョン「Obayashi Sustainability Vision 2050」を掲げており、「地球・社会・人」のサステナビリティの同時達成を「あるべき姿」として定義している。その目標に向けて、①脱炭素、②価値ある空間・サービスの提供、③サステナブル・サプライチェーンの共創という 3 つの柱を掲げ、バックカスティングで中長期の KPI を設定している。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

大林組の競争優位性は、大きく分けて 3 点挙げられる。まず一つ目は、国内建設事業の強固な基盤である。国内建設事業の売上高は 2023 年度の売上の約 7 割（1 兆 6,335 億円）を占めており、大林組の強みであると言える。二つ目に、高い技術力と ESG 志向の先進性を挙げる。大林組は BIM/CIM や ZEB、洋上風力、グリーン水素など多様な技術・案件に展開しており、特にサステナビリティ関連事業に早くから取り組んでいる点は評価できる。三つ目はグローバルな事業ネットワークである。大林組はアジア・北米・欧州に広がるグループ会社を通じた現地展開を行っており、海外展開に強みを有している。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

持続可能性があるかと理解できると考えている。まず、環境・人材・サプライチェーンにまたがる 6 つのマテリアリティを掲げ、それぞれに KPI を設定していることなどから、ESG 対応と SDGs 志向が企業活動に深く根付いていることが感じられる。また DX 推進と人的資本への投資を行っていることも競争優位性の持続につながると言える。大林組は DX 本部設置により BIM/CIM や業務プロセス改革を進めており、これが中長期の生産性向上と新規事業創出につながると見込まれる。加えて持続的成長に向けた資本政策の見直しが行われていることも評価できる。大林組は ROIC5%・ROE10%の達成を掲げており、資本効率と収益性を重視した戦略に移行している。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上（＝スキルの向上）を達成できると思うか

大林組では DX や技術開発への積極的投資が行われており、社内で ZEB や再エネ・グリーン水素といった先端分野へ参画する過程で、自身も高度で多様なスキルが習得可能であると考えられる。加えて大林組では若手からベテランまでが協働し、経験知を交換しながら課題解決を目指す文化があり、実務と学びが両立する土壌が整っていることが、自身のスキル向上に資するものと感じられる。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

報告書のよかった点としては、まず構成が明快で、長期ビジョン・中計・ESG 対応の連関が分かりやすかったことが挙げられる。また、役職員の「声」や具体事例（YOKOHAMA SYMPHOSTAGE、京都競馬場など）によって臨場感と実効性が伝わる。加えて定量データ（KPI、売上構成、ESG 指標）が豊富で信頼性があることも評価できる。

一方で改善の余地としては、ESG の「ガバナンス」面や「リスク対応」については定性的な記述がやや多く、数値や具体施策がもう少し詳しくあるとよいと感じた。また報告書の分量が多いため、学生・求職者・非専門家向けの簡易サマリー版があるとアクセス性が高まるのではないかと思う。